会津若松商工会議所

会　頭　渋川　恵男

この度は全国商工会議所観光振興大会2018in会津若松の開催にあたり、全国各地からお越しいただきました皆様を心より歓迎申し上げます。

はじめにこの度の西日本を中心とした豪雨災害、また北海道胆振東部地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。非常に困難な状況の中、多くのご参加をいただき、衷心より感謝いたしますとともに、こうした地域の皆様にとって有意義で実りある大会となるよう努めて参る所存であります。

さて国内外の情勢は目まぐるしい勢いで変化しており、少子高齢化やそれに伴う人口減少の加速、労働力不足など今日的課題が山積しております。そうした中、国が掲げる2020年のインバウンド4000万人達成が視野に入るなど、観光は各地域が経済活性化に向けて取り組むべき最重要課題となっております。特に地方都市にとっては、縮小する経済に立ち向かう唯一無二の手段といっても過言ではありません。

こうした中、本大会は「観光地から感動地へ」をテーマに掲げました。訪れた方の心に寄り添い、その心を揺さぶる価値を提供できる場所を「感動地」としてイメージいたしました。お仕着せではなく真に顧客目線で地域を見直して資源を発掘し、そのために不断の努力を重ねていくことが地方都市における持続可能な観光の理想形であり、またこれからの地域づくりに欠かせない視点として共有していただければと考えております。

本大会はこうした視点からプログラムを企画しております。全体会議は地方都市の観光に造詣の深い識者をお迎えし、我が国と諸外国を俯瞰した階層的な観光の取り組みや地方都市が目指すべき方向について考える場といたします。分科会はそれを踏まえ、さらに具体的な手法、最新のテーマで各地の元気な事例を取り上げるなどして、皆様の実践にお役立ていただきたいと思います。

本年は戊辰戦争、明治維新から150年の節目の年を迎えました。会津若松は激動の幕末を語り継ぐ歴史のマチとして、先人から受け継いだ「ならぬものはならぬ」に代表される愚直な生き様を未来へつなげるべき遺産と受け止め、新たなスタートを切っております。過去大会では例のない、小さな都市でありますが、街角に残る先人の息遣いを感じていただければ幸いです。

また冒頭にも述べましたとおり、大規模災害が多発する昨今ですが、東日本大震災から7年余りが過ぎました。本県をはじめ、東北の被災地は未だに復興の途上にあります。この間、全国の商工会議所から寄せられたご支援にあらためて御礼申し上げますとともに、この機会に復興する「福島」の姿をご覧いただければ幸甚に存じます。

結びに、本大会開催に当たり、日本商工会議所をはじめ多大なるご支援、ご協力をいただいた関係各位に心から感謝申し上げ、開催地からのご挨拶とさせていただきます。